

2023年9月28日

京成電鉄株式会社 ソーシャルローン 2023年度レポート

1. 資金充当状況レポート

調達資金 100 億円の全額をリファイナンスにより充当しており、未充当残高はありません。

プロジェクト	内訳	充当額(百万円)	ソーシャルローンによる充当割合(%)
全ての利用者に安全、安心を提供するために必要な鉄道関連設備にかかる投資	駅舎リニューアル	3,448	100%
	駅舎耐震補強	2,301	100%
	列車無線デジタルSR化	3,465	100%
	連続立体交差化	786	100%
合計		10,000	100%

※ ソーシャルローンの発行年から3年以内に開始された事業に充当しております。

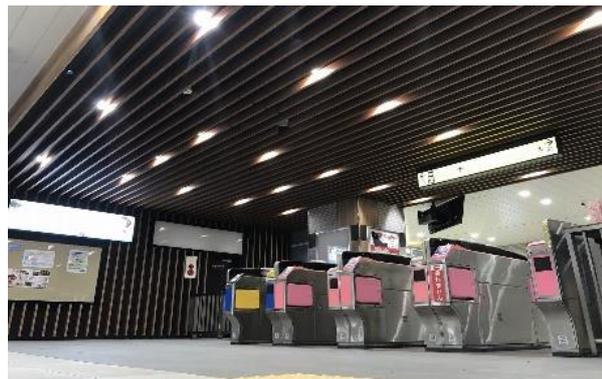
2. インパクトレポート

調達資金は、全額を以下のプロジェクトに充当しました。

① 駅舎リニューアル

駅の利便性・安全性の向上のため、駅舎リニューアル工事を推進しています。

千葉中央駅は、駅施設の老朽化と隣接する京成千葉中央ビルの建替えに伴い、リニューアル工事を実施しました(2022年3月完了)。駅舎の配色は、近隣商業施設との統一性を持たせるべく、グレーと木目調を使用しました。また、駅照明は、重厚感・高級感を演出するため、温かみのある暖色LED照明を採用しました。そして、改札口正面のディスプレイボードは、駅のモニュメントとなるよう、アーティフィシャルフラワーを用い、印象的な空間を演出しています。



② 駅耐震補強

各駅を対象に耐震診断を実施し、耐震基準に満たない駅のうち、1日あたりの利用者の多い駅から優先的に耐震補強工事を実施し、地震に対する安全性の向上に努めております。

東中山駅は京成本線の間際に位置する橋上駅であり、工事実施当時1日に約7,000人のお客様が利用される地域に根差した駅であるため、耐震補強工事に着手しました。2021年3月には駅舎、2022年3月にはホーム上家の耐震補強工事が完了しております。

駅の安全性を強化し、お客様に安心して利用していただけるサービスを提供します。



③ 列車無線デジタルSR化

2023年4月より、デジタル方式の列車無線(※)へ完全移行を行いました。従前はアナログ方式(誘導無線式)を使用し、通話のみで各車両と情報伝達を行っていましたが、今回の完全移行により、より高品質な通話と文字情報での情報伝達が可能となりました。異常時対応等のさらなる迅速化を図ります。

※列車無線とは、運行を管理している運輸指令と乗務員との間の情報伝達のほか、事故・災害発生時等に異常を知らせる信号を発報し、周囲の列車を停止させ、事故の拡大を防ぐ役割をもつ重要な保安設備です。



④ 葛飾区内連続立体交差化

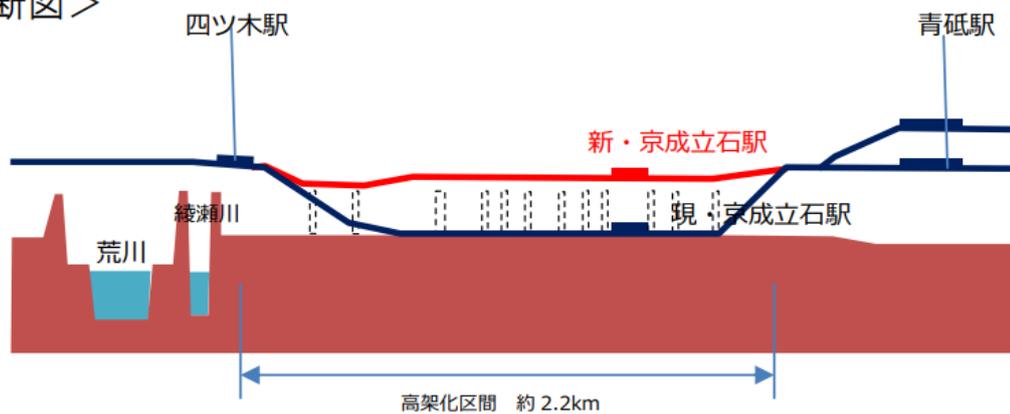
東京都、葛飾区と連携して、押上線の連続立体交差事業を推進しています。この事業が完了すると、沿線にある11カ所の踏切が廃止され、道路・鉄道それぞれの安全性が向上するほか、踏切による交通渋滞が解消します。これまで鉄道により分断されていた市街地の一体化を図ることができ、魅力あるまちづくりが推進されます。

2022年度までは、仮線の準備工事等を行いました。引き続き、2023年度も仮線準備工事や仮駅舎工事を行う予定です。今後も事業完了に向けて、工事を進めてまいります。



連立事業イメージ
(墨田区内 連続立体交差化)

<縦断図>



以上